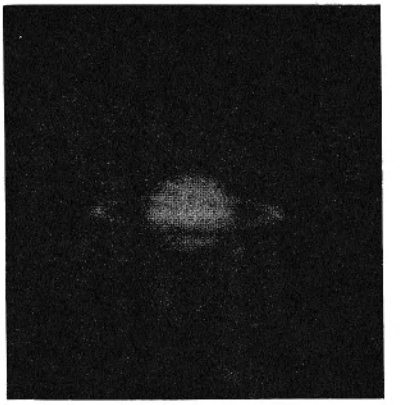
日本GAP山形支部報

ユニバーサルメッセージ

20

ユニバーサル メッセージ



No.20

=目次=

感動の連続 …… 清水 正 …1

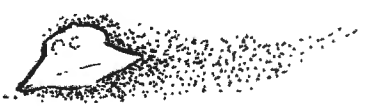
アダムスキー哲学と様々な出逢い …… 遠藤由貴子…2

エネルギーに関する物理学的考察 …… 遠藤昭則…7

テレパシーについて思ったこと …… 松本隆司…9

バランス …… 石川敏雄…11

編集後記 …… …13



感動の連続

清水正

毎日の仕事は同じものがなくて、食べるものも同じということはありません。毎日出会う人もいつも変化していて、ある時気嫌が悪くて近よりがたくても次には温かく奥の深い雰囲気を感じることがあります。

数年前、職場の庭に植えた小さな姫リンゴの木は人の背丈をはるかに越えて大きくなり、毎年の冬の真中には野鳥のエサとして実がしっかり枝にぶらさがっています。

身の回りを観察しますと同じものが一つもないこと、それがいつも変化して何かの役に立とうとしていることがわかります。

万物を眺めると小さなことに感動せざるおえない出来事が日々刻々起こっています。

しかし時に人の心は、結果のみみつめるために出来事を一現象ととらえて、その原因を考えようとしません。自己の快楽にのみに関心が強く、回りで起こっていることに対して目を閉じようとします。

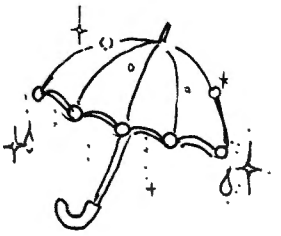
そうした中にあっても人の心は、ことの起こる原因に関心を向けざるおえないでしょう。なぜならば、人も万物の一部であり、そうした所から恩恵をうけているからです。

ところで、人には無限の可能性というものがあるような気がします。それは、感動によって認められるのではないでしょうか。自分にとって高いフィーリングに触れた時に感動がおとずれてきます。心が開かれて、自分にとって必要な役割を見つけたとき感動がやってきます。

先日は、友人の結婚披露に参加してまいりましたが、男女の結びつきや二人の決意、そして感謝の想念などなど深い感動が起こってきました。こうしたことから思いましたのは、映画とか音楽など何でも素晴らしいものごとに触れることの重要さでした。真底からの感動を体験していくことは、いづれは自己の想念波動を高め、因を知る者、又、宇宙の意識と一体となる上でかかせないことではないかということでした。

自然の中の精妙な活動を観察したり、大宇宙に思いをはせスペース・ブラザーズ、コズミック・パワーを考えるとき、そのいづれもが久遠の約束と感動をもたらしてくれます。

アダムスキー哲学と様々な出逢い



遠藤由貴子

この記事は、今年三月三日の東京月例会に於きまして、遠藤由貴子さんが体験講演されたものです。由貴子さんご本人の転載許可を得まして、前回にひき続きその後編を掲載します。彼女の講演は、アダムスキー哲学はまさに実践の哲学であるということを痛感させてくれます。（編者）

ミラクルワードの実行

私の人生が一八〇度転回したのはニューズレター六〇号の巻頭言、『信念の魔力』を読んだ時からでした。私にとって本当に一八〇度転回したと言っても過言ではないのです。

「私の運命は良くなると数千回、数万回とくり返し唱えることによって必ずその通りになる。ところが一般人は自分はダメ人間だと思い込んでしまっているので、その信念によって実際その通りになってしまう」

この文章を読んだ時、ものすごい勇気と希望が私の中にわき起こってきました。この素晴らしい『信念の力』によって、私の運命を良い運命に変えることができるのだと思うと始めて光を見つけたような思いでした。

私はいつも自分をダメな人間だと思っていたことに気づき、その時から、「良くなる・良くなる」とものすごい勢いでミラクルワードを唱え始めました。夜はベッドに入ってから眠りにつくまで唱え続け、朝は目をさましたとたんから唱え始めました。

そうするとなぜか楽しい毎日が訪れるようになり、人間関係も明るく楽しいものとなるにつれて、私自身や私の人生が、だんだんと良くなってきたのです。自分で自分の心を明るい想念に変えることによって良いことをひきつけるようになりました。

この信念の力は宇宙の絶対不変の真理です。希望の力です。そしてこの力は誰の中にも存在しています。良いことにこの信念

会社では、女子の事務員が三人いて仕事を三つに分担して、それぞれが受け持っていました。でもこの時私が選んだ会社は、全ての事務の仕事を一人でする事務員一人の転場でした。私はその会社に入社することを迷いませんでした。一人で責任をもって仕事をしなければならない場所に自分を置いてしまおうと思ったのです。そこでは甘えていられません。イヤが何でも私がしなければならないからです。私にとってそれは大きな壁でした。でも私はそれを越えなければならないと思ったのです。自分の弱さに目をつぶってばかりいるわけにはいかなかったのです。自分の欠点、弱さから逃げるよりも、それを少しずつ克服して行こうと思いました。結局いつかはその問題にぶちあたり、乗り越えなければならないのです。「自分にできるだろうか」とやはり不安はありましたが、私は毎日、毎日「仕事ができる！できる！」とくり返し唱え、どんなむずかしそうな仕事ができても「イヤだな」と思わないで「必ずうまくできる！」と思い込んで仕事に打ち込みました。すると本当に不思議なことに、仕事がうまくはかどり、仕事の内容をすぐ把握できるようになり、きちんと仕事ができるようになったのです。私は、自分の仕事に責任をもってすることをイヤだと思わなくなりました。「私にも仕事ができるんだ」と思うと本当に嬉しくてたまりませんでした。

人間はいろんな力や可能性を内部にもっているんだなあと思いました。人間は自分で思う通りの人間になるという宇宙の法則のもとに「自分は仕事のできる人間だ、私はその力をもっている！」ともう百パーセント思い込んで、そういう自分のイメージを描くなら、本当にその通りになります。私は仕事に対して意欲的に取り組んでいなかった過去の自分にしばられないで、これから新しい自分を作って行くんだ！という気持ちで頑張りました。

どんな目標を持つとしても、それがすぐ達成できないとしても、あきらめることはありません。どんな時も目標に向って一歩一歩前進して行くことが大切なのです。でもあきらめたらそこまでです。でもあきらめずに努力するなら目標に少しずつ近づいて行きます。自分の目標は必ず達成できるという確信とやる気と実行が大切だと思いました。ひとつのことに対して、自ら意欲的に行動するようになると、

自然にもっといろんなことに対して、積極的に取り組むようになり自分の中のいろいろな可能性が広がって行くようです。

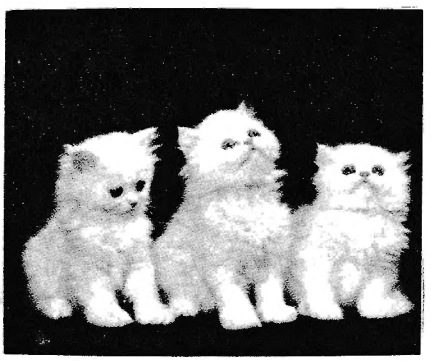
愛する心をいつも持っていたい

いつの日か私は、子供の親となる日が来るかもしれません。そのことを思う時、私は今から少しでも宇宙的に生きて行かねばと思うのです。子供が両親から受ける影響はとても大きいものです。両親がたとえ何も言わなくても両親の心の中にある想念を子供は素直に受け取っています。両親の悪い面にせよ、良い面にせよです。だから私は、将来の子供のためにも自分を少しずつ宇宙的にして行くよう努力し、子供に宇宙的に良い影響を与える人間になりたいと思うのです。子供の可能性を親である私がつむことなく、自由にのばしてあげるように。子供に強制的に押しつけるようなことはしまいと思っています。ただ子供の内部にある宇宙の意識が発現できるよう、助言して行きたいと思います。

実際に子供を育てるということは、大変むずかしいものかもしれません。また、素晴らしい発見の日々かもしれません。

約二年半くらい前、私は二匹の猫を拾ってきて、親代わりとなって育てることにしました。最初の頃私は、猫をちょっぴり苛めて遊んでいたのです。そういう時って苛める人の気持ちが何となくわかるんです。でも故意的に生命あるものを傷つけるのはとても苦しくて、嫌なものだなと思いました。そのうち猫達が、私のことを軽べつという目で見つめるようになり、猫達自身ちょっとひねくれた猫になってきたんです。「こんなことをしてはいけない。猫には何の罪もないのに、私が勝手に苛めて猫の心をひねくれたものにしてはいけない」と、思ったのです。

それから私は、猫達に愛情を送るようにし、苛めることも止めました。最初のうち猫達はキョトンとしていましたけれど、だんだん私を信じてくれるようになりました。私の愛情に応えて、私の手をペロペロなめて愛を示してくれるようになりました。猫からの信頼をとり戻すのに時間と忍耐がいりましたが、愛の力って素晴らしいなと思いました。愛は必ず、猫を愛の心をもつ猫に変えると私は信じています。私は、愛する心をいつも持っていたいと思っています。



生命への畏敬

ある日私は、花を見つめていて気づいたことがあります。私はこの花の何を見ているんだろう。本当の花というのは、この花を生かしている生命そのものではないだろうか・私は外形だけを見て何を見ているんだろうと思ったのです。その花を生かしている生命を感じようと思ったのです。そうするととても親近感が起こってきて、創造主そのものに接しているような気がします。そしてこの花は、創造主の現れそのものだと感じ、素晴らしいなあと心から思うのです。そうした感じのまま人の中へ出ます。いろんな人に出会いますが、その人の生命そのものを感じて、「ああ創造主の現れそのものなんだ」と思って、とても人が愛おしいというフィーリングが起こってくるのです。そのフィーリングがいつまでも続くといいのですけれど、いつのまにか自分の心に振り回されている私です。

私の家には、鉢植えの花が数個置いてあるのですが、花を見つめていると心がなごみます。あるほど花を見ていたら主人が、「花からユキにピンク色のオーラが出てる」と言ったのです。花も私のことを感じてくれてへる、喜んでいるんだと思うと、お友達になれたみたいでとても嬉しく思いました。

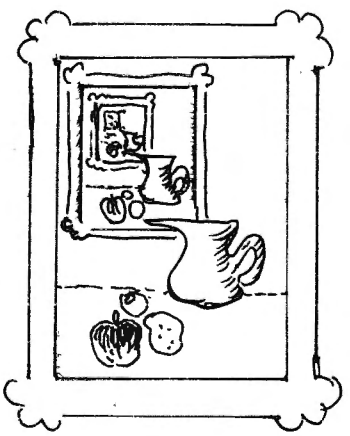
あのシコバイツァー氏は、「生命の畏敬」ということを、ある日ふと気づいたそうなのですが、ある人の偉業はあらゆるものの中にある、生命の畏敬という精神が根本となって、成し遂げたことなんだと思いました。

自由に、明るく、幸せに生きよう

今回この原稿を書くにあたって、とてもよい勉強になりました。毎日少しずつ原稿を書いていたので、今まで以上に宇宙的なことを考える機会がもてました。

創造主は私達に、自由に明るく、幸せに生きることを願っています。だからそのように生きて行きましょう。

最後に、私は久保田先生にPの会員の方々の暖かい御親切、そして主人に心から感謝します。本日は御拝聴どうもありがとうございました。



エネルギーに関する物理学的考察

遠藤昭則

昨日、久しぶりに近くの本屋へ行ってみました。少し前まで改装工事が行なわれていたので、どのようになったのだろうかと興味がありました。エレベータで6階まで行き、その本屋へ行ってみますと、なるほど前とは違って明るさも増し、本を置いてある位置もだいぶ変わっていました。新刊書コーナーとか文庫本のコーナー等を見ていくうちに、哲学・宗教書の本のある所で立ち止まりました。そこにはアダムスキー全集の第5巻のコテレパシー開発法」がありました。私はそれを見て、あっ、ここにもある、と何か安心した気持ちになりました。でもその両横にある本群は神秘的なものばかりでした。私は、このような所に「テレパシー開発法」が置かれていてはかわいそうだなと思いました。そしてこれを買っていく人は純粋に宇宙哲学を学んでいけるといいなと思いました。

そのようなことを考えながら、他の神秘的な本のタイトルを見ていると、何やら不安のようなものが起こってきたので、これはいけないと、あわててそこから離れました。

家に帰ってアダムスキー全集の第7巻を読みながら、本屋でのことを思い出してみると、あれは神秘的な考えやその他の考えによるある種の混乱だったのではないかなと思いました。それで、ああいう神秘的な本には近付かない方がいいなと改めて思いました。

私は学校に勤めている関係上生徒達の心の動きを観察することのできる機会によく恵まれます。例えば生徒達の中には、心霊的な物事に興味を抱いて、それに関するテレビや本からの知識を得ている者が少なからずいます。そうして彼らの知識というものはほんのわずかなものではありますが、彼らの中に恐怖心や神秘を植えつけるには充分すぎるものばかりです。私たち大人でさえ、そのようなものに恐怖をしすぎ、心は混乱し、どうしてよいかわからなくなって神秘が増大し、自分の助かる道を求めて、それかまたはそれに

類する宗教家や哲学者等を頼りにし始めます。

私はこのことを物理的なエネルギーという面から考えてみました。まず心はそのような混乱によって無駄なエネルギーを使い出し、そのためにエネルギーの口スを生じてきます。すると心のポテンシャル・エネルギーは低い方へと移動していきます。つまりこのことは心にとっては楽な結果の世界での救いを求めようとし出すことであると思います。そこでエネルギーを与えてくれる相手または、それに変わるものを見つけます。本人の内部にある意識は再び本人のポテンシャル・エネルギーを上げようとするのですが、相手またはそれに変わるものを通して得られる振動数もその人と同じ低い状態が、またはほんの少し高い状態にあるにすぎないためにその人の心はいつも不安感や不満足感を抱いているようになってしまうと思います。なぜなら意識の要求に従おうとしていないからです。

しかし自分の内部にある英知に気付いている人は、その混乱から抜け出してそれを客観的に見て、自分の心を英知の方へと向かわせることができると思います。そして英知に向かおうとすることによって口スした エネルギーよりも、もっと高い振動数を持つ、より多くのエネルギーを補給することができると思います。心の混乱を取り除こうともがいている時、それは心だけで考えている状態ではないでしょうか。私たちは意識と心とによって力を生み出しています。その二つによって成り立っているのですから、その一方の意識から離れてよ、ポテンシャル、エネルギーは高くはなるはずがありません。ですからそういう時は、その考えていることを一時忘れてエネルギーを補給しに意識のもとへと帰っていかなければならないのではないでしょうか。そうするとエネルギーは新たに補給されて、意識からの解答も得られると思います。

エネルギーとその振動数との間の物理学上の有名な公式があります。それは、エネルギーの量はその振動数に比例するというものですが、これは私たちの肉体にも当てはまると思います。もしそうなら私たちの心の振動数が高くなれば、得られるエネルギーも増大するということであり、そのための肉体内部の各神経中枢を通る電気量や、細胞がそれを受け取る許容量も増えて来るのではないかと思います。

日常生活で私たちの心はよく混乱を起こします。それは自分がその混乱した渦の中にいることに気付かずにふりまわされていることであると思います。それですから、普段から想念を客観的に見つめる訓練が必要であり、そうすることによって自分という船を自分が生まれてきた目的の方へと安全に向けていくことができる意識と一体となっていく他の人々への奉仕という行為の中で新たなエネルギーを得ながら、その船の各細胞が生き生きと活動していくのではないでしょうか。

テレパシーについて思ったこと

松本隆司

リラクセーション

テレパシーの送受信では常にリラックスできるのが理想ですが簡単ではありません。なぜなら、心配事、習慣的想念、個人的想念、周囲に対する不平不満などで私達の頭は一杯になっているからです。

リラックスと緊張は一本の棒の両端のようなものであり、リラックスするためには、リラックスと緊張の両方を理解し応用する必要があります。

たとえば、ラマーズ法（精神予防性和痛分娩法）で行われている弛緩法などです。この方法は、最初に体の筋肉を緊張させ次に体の各部の筋肉を除々にリラックスさせることによって精神的にも肉体的にもリラックスしょうというものです。つまり緊張からリラックスを生み出しています。さらに、この方法は精神と肉体の一体性を利用しています。肉体がリラックスすれば精神もリラックスしますし、その逆も成り立つわけです。緊張についても同じことが言えます。たとえば、右腕の筋肉を注意深くゆっくり収縮させます。次に右腕の筋肉を収縮させた時と全く同じ要領で、ゆっくり時間をかけて力を除いていきます。何度か繰り返して、筋肉の緊張状態と弛緩状態の感じ、それに二つの状態の差異をしっかり覚えます。この収縮と弛緩いずれの場合も、ただ漠然と無意識に機械的に操作してはいけません。常に意志力を働かせて心を入れて行います。このようなことを体の各部について行い、リラックス状態を作り上げていくわけです。

楽しい想念

テレパシーの送信で最も強いのは楽しい想念の送信のようです。私が昔、ある人に笑いかけたところ、その人は頭の痛そうな顔をしましたので、どうしましたかと聞いたところ、なんでもありませんと答えられたこと

があります。その後、私が、ある別な人から笑いかけられたところ頭に鋭い痛みを感じ、以前のことを思い出し、なるほどと思いました。笑いの想念は、かなり強いのです。このような事は、その後も何度か経験し、特に疲れている時などよくわかります。これは、笑いの強い想念を受け取り自分の中に抵抗なく流すことがむずかしくなるためではないでしょうか？

このことも、自分が緊張しているか、それともリラックスの方向に向っているかを判断するためのよいチャンスになりそうです。ただし、これを行うためには2人以上の人が必要ですし、あまり長い時間は普通なかなかできないものです。

主観と客観

人が自分の心を自由自在にコントロールするためには、主観と客観のバランスをうまくとる心要があると思います。人により主観と客観の比率が異なるでしょうし、男性と女性では体の構造も異なり、主観と客観の比率も異なると思います。大切なのはバランスであると思います。

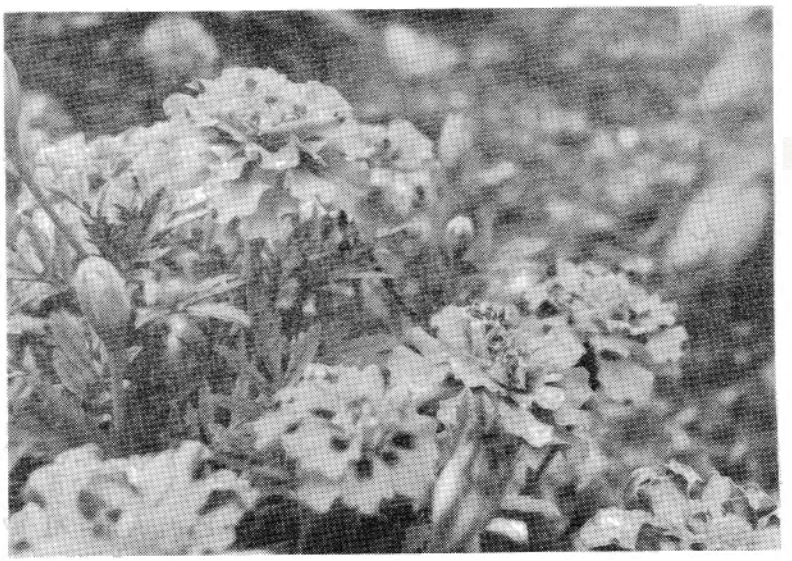
すべては一つ

人間は音楽です。大宇宙という大シンフォニーの中の一節です。どの一節が欠けても大シンフォニーは完成しないのと同様、人間一人一人は重要な存在であり、また一人一人異なります。しかし、どの一節も大シンフォニーと一体であるように、人間、いや、すべては一体です。一体であるべきです。

テレパシーの重要なポイントは、この一体感にあります。一体でなければ想念は伝ってこないでしょう。

アダムスキー氏が述べているように、すべては一つであり、分離はないのです。

これがテレパシーを行う際に忘れてはならない最も重要な概念です。とはいっても、この概念をイメージとして浮かべることは非常にむずかしいことです。自然のあり様、身の回りのもろもろの現象を親しく観察することによって、この概念がイメージとして浮かんでくるようになると思います。すべてが一つであることが、あらゆる所に表現されているからです。



バランス

石川敏雄

広大な宇宙の営みを考えますと、凡そバランスによって成り立っているといえます。

惑星の運動はその太陽系全体の精妙なバランスによって動かされています。また太陽系の運動はその銀河系全体の、また銀河系の運動はそのさらに全体のというように、結局のところこの大宇宙は、バランスによって運動を展開しているといえます。

このように考えますとバランスとは調和であり、調和とは、一体性でありますからバランスとは一体性であるといえます。そして何事においてもバランスを保つということは、その存在を永遠なものへと押し広げてくれます。

惑星に存在する自然のあらゆる物事は、この法則に従っているといえます。

自然の中にみいだされる創造物は、生まれるときはすべてにおいて、バランスよく保たれているといえます。さもなければ創造され得なかったでしょう。なぜならば、バランスを失ったものは現象の中では、存在できないといわれています。

一個体が創造されその存在を維持してゆくためには、バランスのとれた状態が必要となります。それでこそ、その個体を活性化させるところの宇宙の力が個体全体にいかんなく発揮されるものといえます。

然しながら、人間はこの法則に必ずしも従っているとは思われません。

例えば、食生活において矛盾した風潮があります。専門的な知識を備えた立派な医者が、こう言ったからといって人々はそれを鵜呑みにしています。

野菜を（特に生野菜）食べるのは体によいといわれています。確かにそのことはよいことですが、例えばニンジンのように、スーパーには根の赤い部分しか売っていないのがほとんどです。そして、ほとんどの人がそれを食べればニンジンの栄養がとれたものと思っています。そして葉っぱの部分は食べないものと思い込んでいます。これはチョ

ット不思議ではありませんか。万物はすべて、その個体全体でバランスを保っているのです。当然全体として栄養のバランスを保っているといえます。もしニンジンを食べるのなら全体として食べなければバランスのとれた栄養がとれないことに人々はどうして気付こうとはしないのでしょうか。アダムスキー氏がいみじくも言っておられますように『新しい物事が発表されたときは、そこに書かれている言外の意味もくみとろうとしなくてはなりません』と。

人間は既成の事実によって、今日までどうにか生きてこられました。そしてその事を、よいことのように自分達の子孫に引き継ごうともしています。自然がバランスの法則に従っていることは何も知らずして……

知らないからこそ調和することも顧みず、むしろアンバランスな状態を造ってきたのかも知れません。しかし、自然と共に生き、その恩恵にこれから先もあずからんとするならば、人間自身がいまゝで培ってきた既成の事実とやらを自然の中に置いて考え直さなければ、ますますどうしようもない状態になってゆくでしょう。

自然は創造されたときから創造主に従っています。だから美しいのです。人間はその自然から多くの事を学ぶことができます。

そして自然を深く理解すればするほど創造主のみこゝろもわかってきます。

人間と自然がもとのようにバランスよく、調和するならば、創造主と自然と人間はもはや孤立しなくなるでしょう。

ちょっと失礼！

（T・S）

朝、目ざめたとき、あなたは何を思いますか。どんな気持ちで起きますか。大きく背のびをして、空気をいっぱい吸い込み、「さてきょうも一日やるか」なんて、張りゆったりするんでしょうね。わたしはそんな新しい始まりの朝が好きです。「きょうは、どんな出来事があるのだろうか。どんな人と出会うのだろうか」そんな新鮮な気持ちにさせてくれるのですから……。

きのう誰かさんとケンカしたって、朝になってみればもう何てことはない、きょうはすぐ仲なおりできそう……。そんな気持ちにさせてくれるのが、朝ー一日の始まりーです。そして、その一日の始まりは、その日にとって重要なキーポイントだと思うのです。

そんなわけでわたしは、朝ミラクルワードを唱えるのです。これぞ名づけて、モーニング・コールなるモーニング・ミラクルワード。

とにかく、明るく希望に満ちあふれた言葉でバシッと一日の始めを決めるのです。始め良ければ終わり良しとは良く言ったものですね。何かつは素晴らしい事が起こるんですから（これほんと）……。

GAP山形支部
月例研究会

毎回、和やかな楽しい雰囲気でアダムスキー問題、宇宙哲学等を研究しています
ぜひ御参加下さい。

毎月第一日曜日一時～五時
次会は七月一日です。
場所　山形福祉文化センター

プログラム
東京例会における久保田会長「宇宙からの訪問者」解説テープ公開、座談会、テレパシー練習、他

持参していただくものは、「宇宙からの訪問者」(文久書林)

編集後記

おかげをもちまして、ユニバーサルメッセージも二十号を数えるにいたりました。これも久保田先生をはじめ全国の皆様のおかげです。これからの支部活動の発展のため御意見などございましたら、どしどしおよせ下さい。

今回は遠藤御夫妻に共に登場していただきました。由貴子さんのアダムスキー哲学と様々な出逢いは先号に続く後編です。

六月二十四日仙台、山形合同支部大会後も各地で支部大会が活発に行なわれます。七月八日、大阪支部大会、七月二十八日、新潟支部大会と続いてさらに各地でありますので、いずれかに積極的に参加下さい。

Uコンの委託販売も好調な売れ行きの模様で、完売が多く出ています。委託で協力してまいりましょう。

又、アダムスキー全集の献本活動による反響も出て来た様子で、市立図書館などでの貸出情況でもトップクラスをいっています。

(T・S)

ユニバーサルメッセージ21号
予告。
仙台・山形合同支部大会
講演「現象の世界と宇宙空間」
久保田八郎先生
一挙掲載します　御期待下さい

日本GAP山形支部機関誌
ユニバーサルメッセージ20号
編集発行人　清水　正
発行所　日本GAP山形支部
992 山形県米沢市中田町901-2
県営中田アパート 141号
1984 6/23 発行　頒価100円 送料170円